

米歐回覧

第 8 号
編 集 ・ 発 行
米 欧 回 覧 の 会
事 務 局

第六回例会、歴史部会担当で盛況

各部会の活動もいよいよ始動!

第六回の例会は七月二十四日(木)午後六時半から国際文化会館ホールで開催された。今回は部会担当の最初の試みで、当会員でもあるノンフィクション作家の水沢周氏の講演「プロシヤ留学生青木周蔵と岩倉使節団」を中心に行なわれ、たまたま時期が暑中休暇と重なったにもかかわらず四十五名の参加をえて大変充実した内容となった。

会は定刻六時半から浅沼晴男氏の司会で始まり、最初に泉三郎氏から会務全般にわたっての報告があった。アメリカ西海岸でのジャパソサエティでの講演状況や各部会の活動状況についての説明があり、十月二十五日(土)に

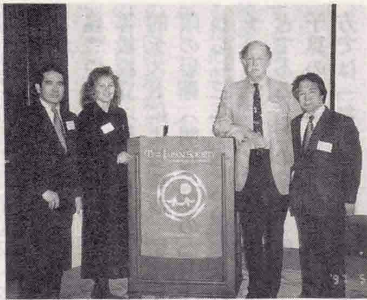
次回の例会が現未来部会の担当で行なわれるとの報告があった。

続いて各担当幹事より各部会のその後の活動並びに今後の予定について報告があった。多田氏よりは「実記を読む会」が既に二回の会合を重ねて先行し早くも軌道にのりつつあるとの報告があり、他の部会については小田氏らからいずれも最初の会は顔合わせ程度に終わり実質的活動は次回からの報告があった。

今後の予定として、国際交流部会では映像部会とのジョイント企画で、八月三十日(土)、三十一日(日)の二日間、「岩倉使節団」の鹿島

立ちの地・ヨコハマで盛りだくさんなメニューの楽しい会を企画、そして現未来部会では九月十三日(土)、十四日(日)、大宮にあるKDDの研修センターに泊まり込みで大いに論じ合おうという企画が発表された。部会活動もそれぞれの特色をあらわしていよいよ秋から熱気を帯びてきそうな気配である。

七時からは歴史部会幹事の半沢健市氏の司会のもとに水沢氏の講演並びに質疑が行なわれ、最後に田川氏より今後の予定についての確認があった。九時に閉会した。



サンフランシスコのジャパソサエティにて右から泉三郎氏、ドウス・スタンフォード大教授ボック事務局長・浜地道雄氏

このたびの例会に水沢周氏を招くことができたのは大変な幸せだと思っています。ただ二時間足らずの間では氏の蘊蓄のごく一部しかうかがえなかったのはやむを得ません。

歴史部会に期待する・・・

泉 三 郎

明治憲法の成立過程だとするならば、それはまた岩倉使節の一番の旅の土産であった木戸や大久保の憲法建議ともダブってみえてくるのです。つまりこの視点からすれば「明治という国家」の成立過程がさらに立体的に鮮明に浮び上ってくるのではないかと思われからです。

著者はその「あとがき」でこう述べています。

「私にとって青木周蔵のこの物語は、明治の外交、内政の相互干渉史、生活史などを通じて、現代日本そのものを見直すためのレンズだったのだとも考えている」。

このたびの例会に水沢周氏を招くことができたのは大変な幸せだと思っています。ただ二時間足らずの間では氏の蘊蓄のごく一部しかうかがえなかったのはやむを得ません。

「新」です。歴史を振り返ることは即現代を見直すことです。歴史部会は水沢氏の協力を得て当面グループのテーマを「明治国家の形成史」に絞っていかうとの意向のようですが、その展開に大いに期待したいと思います。

「岩倉使節とプロシヤ留学生青木周蔵」

(第六回例会における水沢周氏の講演要旨)

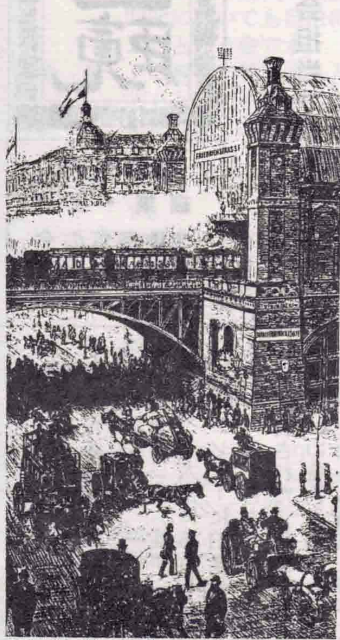
I プロシヤ留学生青木周蔵

青木周蔵(一八四四・弘化元年一八九四・大正三年)は幼名三浦団七、長州の村医者の子供に生まれた。地元と中津での勉学後、藩校明倫館好生堂へ入る。この間、後の宮廷大医青木研蔵の養子となり青木周蔵を名乗る。第二次長州戦争には医師として長州側に従軍。長崎留学を経てプロシヤへ医学留学を命ぜられる(一八六八・明治元年)。渡欧後、医学から政治に無断転科し問題化したが来欧の山県有朋にアピールして解決した。

一八七二(明治五年)北独留学生総代となり在独留学生の専攻科目決定に介入し物議をかます。当時の留学生の専攻は軍事、医学に「集中」したので、青木の真意は日本近代化には、専攻を「分散」することの必要を説くことだった。彼の推奨もあって、林業、製紙、ビール、製絨(ロシア)などの分野へ特化して成功した人物も出た。

II 岩倉使節団の訪欧と留学生管理

使節団使命の一つに海外留学生整理があった。留学生は、文久年間の密航組、薩摩藩派遺組、慶応年間の幕府派遣組などが居り玉石混交であり、政府財政難の一因でもあった。資料によると明治四年の留学生総数三〇〇人中官費によるものが半数いた。留学生経費総額は、四一四、〇〇〇円で文部省予算(明治五年)の、三分の一を占めていたとされる。留学生制度調査には、伊藤博文がロンドン大学学士チャールズ・グラハムとの協議をまとめた報告書がある。そし



ベルリンの歴史。帝政ドイツでの出立は、運として早く、共和国とはちがった雰囲気だった。

て留学生制度改革は明治五年の「学制」により管轄が「大学」から明治四年設立の「文部省」へ移管されて本格化するが、一言で言えば「管理主義」の強化だった。留学生の等級設立(教授と学生)、公的テストによる選抜、留学年限の短縮(明治三年の「五年」から「三年」へ)、帰国後のチェックの強化、官職主義などである。この結果、留学生予算の比率は低下したが、一方では「お雇い外国人」の急増があった。明治五年から明治七年の間、「お雇い外国人」の数はピーク五二〇人に達したという。

III 木戸孝允副使に

対する青木の貢献

大久保利通、木戸孝允らは米国での性急な条約改正交渉

国際交流グループ・映像グループ

両グループの共同企画によるイベント「ヨコハマ・ツアー」：ミュージアムを訪ねる、映像を見る、語り合う」を行います。どのグループの方もご参加下さることを歓迎します。この際ですから地方の方もどうぞお越し下さい。

◎日時 8月30・31日(1泊) ◎宿泊 横浜テクノタワー ホテルファミール (045-788-8000)

◎集合 11時横浜開港資料館 ◎内容・横浜開港資料館・大 棧橋遺跡・マリタイムミュージアム 見学

◎ホテルで「岩倉使節団の米欧回覧」のスライド全三巻を泉三郎さんのお話とともに鑑賞

◎お申し込み先 8月18日(月) イズミ・オフィス 「ヨコハマ・ツアー」係 (0426-46-1949)

歴史グループ 連絡 半澤健市 TEL&FAX 03-3717-5576 (自宅) (できればファクスで)

一、今後のテーマ

当面(例えば一年位)は、「明治憲法制定」、「明治初期政変」、「西南戦争」、「条約改正交渉」などのテーマを進めていってらどうかと考えています。

二、次回の案内

- ★日時 十月九日(木)午後六時半〜午後九時半ごろ
- ★場所 クラウンインターチェンジ
- ★テーマ 「明治憲法制定の舞台裏」。明治十年代の憲法論争での有力二案をタタキ台として討議する。単なる学問的議論ではなく、現代の憲法論議を頭においてやりたいと思います。
- ★九月上旬に「歴史グループ」登録者にご案内します。他の部会のかたでも遠慮なくお申出ください。ご案内差し上げます。
- ★水沢周「青木周蔵・日本をプロシヤにしたかった男」(中公文庫)を参考にしたいと思っております。読んでいなくても解るようにはするつもりです。

※の「失敗」からの回復を願っていた。憲法や法制に関する研究の必要を痛感したことから「米國憲法」、モンテスキュー「法の精神」の翻訳を急がせるなどしていた。



新報館からしく高宮に集ちたベルリンの目抜き通りウラナル・デン・ランデン街風景。

ロッパの政治経済の実状や各國の憲法についての青木の広い知識は、とりわけ木戸孝允には強い印象を与え同感の念をもたらしした。直後に、青木によって書かれる憲法草案の一つ「大日本政規」(またはその修正版「大日本国政典」)は、この時の両者の「勉強」成果といふこともできる。

IV むすび

岩倉使節団と海外留学生との関係を主に述べてきたが、結論に入る。
スマイルスの「セルフヘルプ」(西国立志編)の訳者で啓蒙思想家の中村正直は、日

アメリカ講演と英語版映像について

本年五月、サンフランシスコとロスアンゼルス、ジャパソサエティで、「岩倉使節」についての講演が行なわれた。サンフランシスコでは使節が宿泊したゆかりの地シエラトン・パレス・ホテルで、約五十人が参加して、英語版映像アメリカ編の上映と泉氏のスピーチがあった。そしてスタンフォード大学の歴史学教授ピーター・ドウス氏の司会のもとに活発な質疑が行なわ

れ、参加者からは是非続編も聞きたいという声が強かった。またロスアンゼルスではリトルトウキョウにある日米ナショナルミュージアムで百人を超える人々が参加し、カリフォルニア大学のバーガー教授がモデレーターをつとめ、アメリカ人も日系人もいりまじったの盛会となった。
また、六月には鈴鹿のIA TSS・FORUMで東南アジアの若きエリートを対象と

本の西洋文化の受容を「偏った知識のみを奪い精神的なものを欠いた」と述べた。また、森嶋外が留学当初に在独公使青木周蔵に「衛生学を修めに来た」むねの挨拶に行つたとき、青木が「足の指の間に、下駄の緒挟みて行く民に、衛生論はいらぬ事ぞ。学問とは書を読むのみをいふにはあらず。欧州人の思想はいかに、その生活はいかに、その礼儀はいかに、これだに善く観ば、洋行の手柄は充分ならむといはれぬ」と応えたという。米欧回覧実記が実学に偏っている点にも留意して読んでゆくべきであろう。

する講座があり、急遽欧州編映像の英語版が制作された。これによっていちおう簡略ながら「百二十分・世界一周」の英語版ができたことになるのでご報告しておきたい。
なお、今回のアメリカでの会はいずれも浜地道雄氏の尽力に負うところ大きく、また欧州編の英語版制作についても氏の連日わたる徹夜の協力があつた。

「実記」を読むグループ 連絡 長谷川公一 TEL 03-3352-0847

現未来グループ 連絡 郡山史郎 TEL 03-3492-8553 FAX 03-3492-8144

〔現況と今後の予定〕
現未来グループには、現在五十三名の方が登録しています。第一回のグループミーティングを六月十日に行い、二十名の方が参加されそこで行なっているテーマを出していただきました。
今後は、テーマをしばって、楽しいサロン風議論を進めていきたいと考えています。
第二回ミーティングは九月十三、十四を予定しております。今回の総合テーマは「現代日本の問題点と世直しビジョン」いま、日本で一番論すべきもの」です。大宮近郊KDD研修センターで、懇親を兼ねて開催します。また第七回例会を十月二十五日当グループ担当で、国際文化会館ホールで開催する予定です。どうぞよろしくお願い致します。

〔活動報告〕
何はともあれ、まず米欧回覧実記を実際に読んでみよう。一こうした趣旨に賛同した会員同志が、「毎月第一週の木曜日」に集まって「実記」を読み始めた。第一回の会合は、六月五日にスタート、長谷川公一会員が、実記が公的報告書(明治新政府)の形をかりた日記形式の旅行見聞記であり、客観的記述と著者、久米邦武の主観的記述とが融合した記録であること、実記と福沢諭吉の「西洋事情」とを比較し、相違点と共通点を指摘した。
七月三日の第二回会合には約十五人が参加し、「例言」を読んだ。久米邦武の漢語には分りにくい箇所もあったが、ノンフィクション作家、水沢周氏が解説され、参加者一同、大いに助かった(?)次第である。
〔今後の予定〕
八月は休会で、次回は九月四日。「第一編・米利堅合衆国の部」(41頁-73頁)を読む。場所は、クラウン・インターチェンジの青山ガーデンテラス。
午後六時半からスタートし、会費は四千元。

<催し案内>

★例会

- 第7回例会 10月25日(土) 13:00~17:00
国際文化会館ホール
(現未来グループ担当)
- 第8回例会 1月の予定 (国際交流グループ担当)

★分科会

- 国際交流 8月30日(土)~31日(日)
映像 } ヨコハマ・ツアー (別便にてご案内のとおり)
連絡・問い合わせ
足立光正 3375-8668 勤務先TEL
岩崎洋三 3554-5212 "
山田哲司 3941-4555 自宅
浅沼晴男 0462-75-5634 自宅
- 実記を読む 9月4日(木) 18:30~
10月2日(木) } 場所 クラウンインターチェンジ
(03-5469-2090)
- 現未来 9月13日(土)~14日(日) ミーティング
場所 KDD研修センター(大宮近郊)
(048-723-5000)
連絡・問い合わせ 郡山 03-3492-8553
- 歴史 10月9日(木) 18:30~21:30
場所 クラウンインターチェンジ
(03-5469-2090)
連絡 半澤健市 (03-3717-5576)

★久米美術館夏休み企画展

- 「岩倉使節団・12か国の旅」
7月18日(金)~9月15日(祝)
山手線目黒駅西口 同美術館
(03-3491-1510)

★関西在住の方へ

- 関西支部の連絡先は下記のとおりです。
関心のある方はご連絡下さい。
山崎岳鷹: 06-853-3137 (FAX兼用)

『米欧回覧の会』ご案内

- 趣旨** この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である、「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えます。この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。
- 会員** 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例会** 年に4回くらい会合をもつ予定です。
- 事業** 次のような活動をする予定です。映像サロン・講演会・旅行会研究会・シンポジウムなど。
- 機関紙** 年に4回程度機関紙を発行し、会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 幹事** 会員の中から、代表1名、幹事数名を選び、運営を担当します。
- 会費** 年会費3,000円とし、主として通信費および機関紙代に充当します。例会・研究会・講演会などについては、その都度の会費とします。
- 事務局** 当面は『ミササ・オフィス』に置きます。
〒192 八王子市元横山町1-14-16
(ミササ) TEL 0426-46-1949
FAX 0426-45-8700
- 入会申込**
氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所) TEL・FAX 現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお、年会費は郵便払込が便利です。
00180-2-580729
米欧回覧の会

*編集後記

事務局の内緒ばなしを少し・・・

会の活動が活発になるにつれ先立つものが不足気味になってきました。

案内やら資料やらレポートやらいろいろ編集して送ろうとするのが費用がかさんできます。その状況を察して早々と賛助会費を振り込んで下さった大変有難い方も何人かいらっしゃいます。

しかし、この夏の異常気象のせい、世間を騒がす不快な事件の続発のせい、そのことをすっかり忘れていらつしやる方も多いようです。

本当のことを申し上げてしまつと、賛助会費を払い込んでくださった方は現在のところ八名です。おそらくお気持ちのある方はたくさんいらっしゃると思ひますので、今回振り返り込み用紙を同封させていただきました。

個人: 一口 一万円

法人: 一口 三万円です。

小さな声でのお願いです。